



災害が発生したら

正確な情報を収集する

- 倒れやすいものから離れ、落下物に注意。
- 頭部の安全確保。(タオルやカバン)
- むやみに動かず安全を確認。
- 非常口やドアなどを開けて避難口を確保。
- 避難は徒歩で、荷物は最小限に。
(火を扱っている場合は、身の安全を確認後火の始末)
- エレベーターは使用せず階段で避難。
(本学のエレベーターは地震が発生した場合、自動的に停止するシステムになっています。)
- 正確な情報収集に努め、なるべく集団で行動。
- 負傷者の救護や初期消火に協力。
- 家族との安否確認および学校へ安否連絡。

地震発生直後は裏面へ



学校への連絡方法

安否連絡について

大地震が発生した場合、本学は学生の安否確認を行います。
地震発生時に登校していない場合は、連絡可能な状況になり次第、下記の方法で学校に連絡してください。

① Eメール

anpi@tbgu.ac.jp



② 電話

022-234-6682

(非常時のみ)

※電話がつながりにくくなる可能性が高いのでなるべくEメールで連絡してください。

報告事項

- ①所属(大学・専学・教職員)
- ②学籍番号・氏名
- ③本人・家族の状況
- ④自宅や付近の状況・避難先など



日頃の準備

大地震の発生を防ぐことはできなくても、適切な準備を行うことで被害を軽減することができます。どんな備えが必要か考えておきましょう。

- 避難場所の確認(学校付近および自宅周辺など)
- 家族との連絡方法および待合せ場所の確認
- 災害用伝言サービスの確認と登録(メール宛先などの事前登録が必要)
- 帰宅ルートおよび所要時間の確認(災害時徒歩約2.5km/h)
- 緊急時メモの作成・記入
- 具体的な情報収集手段および緊急避難場所などの確認(学校および通学途中)
- 転倒防止対策や緊急時アイテムの確認
- 学校および友人などへの連絡方法の確認およびリスト整備

memo

※記入は油性のペンを使用してください。



緊急避難アイテム

日頃から準備・携帯しておく便利な物

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 現金(小銭も) | <input type="checkbox"/> 学生証(免許証なども) |
| <input type="checkbox"/> 健康保険証 | <input type="checkbox"/> アドレス帳
(家族・友人の連絡先を記入) |
| <input type="checkbox"/> タオル・ばんそうこう・包帯 | <input type="checkbox"/> 雨具(カッパなど) |
| <input type="checkbox"/> 手回し充電ラジオ・ライト | <input type="checkbox"/> 携帯充電用USBケーブル |
| <input type="checkbox"/> ティッシュ・ウェットティッシュ | <input type="checkbox"/> ポリエチレン製ごみ袋 |
| <input type="checkbox"/> 非常用保温アルミシート | <input type="checkbox"/> チョコレート・あめなど |
| <input type="checkbox"/> 油性マジックペン | |

その他非常時に必要なアイテム

- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 貯金通帳 | <input type="checkbox"/> 印鑑 |
| <input type="checkbox"/> 常用薬とその処方箋 | <input type="checkbox"/> 上着・下着・靴下 |
| <input type="checkbox"/> 運動靴 | <input type="checkbox"/> リュック |
| <input type="checkbox"/> 卓上コンロ | <input type="checkbox"/> 懐中電灯 |
| <input type="checkbox"/> ひも・ロープ | <input type="checkbox"/> ろうそく |
| <input type="checkbox"/> 予備電池 | <input type="checkbox"/> 缶切り・栓抜き |
| <input type="checkbox"/> スリッパ | <input type="checkbox"/> 洗面用具 |
| <input type="checkbox"/> 使い捨てカイロ | <input type="checkbox"/> 非常用食料・水 |



家族への連絡方法

NTT災害用伝言ダイヤルサービス

地震など大災害発生時に、安否確認などの電話が爆発的に増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。

171 をダイヤル

録音 **1**

再生 **2**

認証番号を利用する録音 **3**

認証番号を利用する再生 **4**

被災地の方の電話番号を入力

伝言の録音 **1** *
(30秒以内)

伝言の再生 **1** *

*ダイヤル式電話機の方は操作不要です。

事前の登録が必要です!(事前にテストをしてください) 携帯各社の災害用伝言板サービス

大規模災害時に携帯電話から安否確認(安否情報の登録)ができる災害用伝言板サービスです。
あらかじめ指定したご家族や知人に対して、災害用伝言板に登録されたことをメールでお知らせする機能も提供されます。また、インターネットからも安否情報の確認が可能です。

各社のQRコードはこちら



NTTドコモ
<http://dengon.docomo.ne.jp/top.cgi>

au
<http://dengon.ezweb.ne.jp/>

ソフトバンク Y!mobile
<http://dengon.softbank.ne.jp/>

2020.1

電話番号 - 事前に記入しておきましょう

詳しいサービス概要や、ご利用方法はNTTのホームページをご覧ください。
その他携帯各社で提供されているサービスについては、各ホームページをご参照ください。



もしもの時にあなたの身を守る

震災対応 マニュアル

SAFETY GUIDE

2020年 第3版

東北文化学園大学
東北文化学園専門学校

緊急時パーソナルメモ

氏名

学籍番号

所属

学科・科・専攻
部署など

緊急連絡先

住所

電話番号

持病 あり なし 常用薬 あり なし

アレルギー あり なし ()

自宅近くの避難場所

家族との待合せ場所
家族と共有しておきましょう

※記入は油性のペンを使用してください。

地震発生直後

揺れがおさまったら

落ち着いたら①

落ち着いたら②

地震発生
身を守る

今いる場所は
本当に安全？

YES
その場所を動かない

NO
避難場所へ避難

**家族との
安否確認**
※裏面参照

自宅に歩いて
帰れる？

YES
自宅へ

NO
避難場所へ

**学校へ
安否連絡**
※裏面参照

POINT

POINT

POINT

POINT



学校にうつるとい

大きな揺れを感じたら

- 危険物から離れる
窓や棚、ガラスなど割れたり中
のものが飛び出しそうなものか
ら離れる。
実習中や課外活動中などで、周
囲に危険なものがある場合は、
すみやかにその場から離れる。
- 落下物から頭と手足を守る
机の下にもぐる、バッグなどで
頭を覆うなどして、頭と手足を
守る。落下物がない場所にいる
場合は、その場で座り込む。
- 出口を確保する
ドア付近にいる人は、ドアを開
け、出口を確保する。(余裕が
ある場合)
- 揺れがおさまるのを待つ
安全を確保して、揺れがおさま
るのを待つ。

揺れがおさまったら

- 冷静に、落ち着く
余震の可能性もあるので、あわてず
にしばらく様子を見る。
- 周囲の状況を確認
周囲のものが倒れたり、落下してく
る恐れがない場合は、その
場で待つ。危険と判断した場合は、
安全なところへ移動する。
- 初期消火
火災が発生している場合は自分の
身が安全な範囲で周囲の協力を
得ながら初期消火。消火が困難
と判断した場合は、すみやかに火
から離れる。
- 負傷者の救護
負傷者がいる場合は自分の身が
安全な範囲で周囲の協力を得な
がら応急手当をし、教職員に連
絡する。

避難する時の注意点

- 「おかしも」を守る
「おさない、かけない、しゃべら
ない、もどらない」を守り、教
職員や非常放送の指示に従って
落ち着いた後、避難に支障が出る
大きな荷物は置いていく。
- 火災が発生している場合
煙を吸わないよう、タオルなどで
口を覆う。
- 階段で移動
エレベーターは使用せず、階段
で移動する。

学校を基点とした避難場所

避難場所は、広く、火災による延
焼の恐れがないところが適して
いる。
学校ではあらかじめ以下の場所
を避難場所として想定している
が、地震時の状況により安全な
場所、市町村指定の避難場所な
どへ避難すること。

国見キャンパス

避難場所▶ 5号館前広場



安全が確認されるまで学校にとどまる

余震が落ち着き、帰宅手段の安全
が確認されるまで無理に帰宅せ
ず、原則として学校や避難場所
にとどまること。通学途中など
に徒歩で帰宅する場合は目安
は20km以内。チェーンメールや
うわさなどにまどわされず、
テレビ、ラジオなどで正確な情
報を収集する。

国見キャンパスから20kmの地図



通学中

- 周囲の状況に注意し、身の安全
の確保を最優先とする。
- ビル、塀、電柱、自動販売機な
どから離れ、落下物にも注意す
る。
- 「帰宅するか」「登校するか」
または、「最寄りの安全な場所に
避難するか」は自分で判断する。

- 被害状況を正しく把握する。
- 事前に家族と相談して決めた避難場所
に移動する。ただし、被災場所やその場の状況によ
っては安全を最優先し、別の避難場所
に移動する。
- 避難中は警察や消防の指示に従う。

家族の電話番号

-	-	-	-
-	-	-	-
-	-	-	-

memo

memo

大学・専学のHP情報

スマートフォン・携帯電話から見られます

①



②



①大 学 <http://www.tbgu.ac.jp/>

②専門学校 <http://college.tbgu.ac.jp/>